



埼玉支部報 第 25 号

【目 次】

第 1 期「埼玉やま塾」開催される	1	【寄稿】神奈川支部 込田伸夫支部長	
7 月月例山行平ヶ岳 (2141m)	4	合同懇親山行に参加して	12
第 3 回全国支部懇談会に参加	4	【寄稿】東海支部 亀田広明氏 合同懇親	
8 月月例山行 妙高山-夏山の思い出	5	山行「山は仲間と歩けば楽しくなる」	12
9 月月例山行・2018「山の日」大高取山	6	埼玉支部今後の予定	13
10 月月例山行 浅間隠山ハイキング	8	事務局からのお知らせ	14
自然保護委員会「玉原高原自然観察会」	8	One Point アドバイス(その 4)	
南関東ブロック三支部合同懇親山行報告	10	「秋から冬への登山の注意ポイント」	15
【寄稿】東京多摩支部 山本憲一氏			
合同懇親山行に参加して	11		

第 1 期「埼玉やま塾」が開催されました

埼玉やま塾企画担当 高橋 努



机上講習（浦和コミセン）



実技講習（雲取山）

第 1 回埼玉やま塾は、参加者が 13 名あり、5 月 15 日～10 月 21 日の間、平川コーチ兼講師による 3 回の机上講習と 3 回の登山実技講習を実施した。

1. 参加塾生の内容

- ①活用した募集ツール ホームページ 3 名、フェイスブック 1 名、チラシ 6 名、その他 3 名
- ②属性 男性 4 名、女性 9 名 30 歳代 3 名、40 歳代 2 名、50 歳代 4 名、60 歳代 4 名、平均 52 歳
埼玉県在住 11 名、県外在住 2 名

2. 机上講習 5 月 10 日、6 月 19 日、9 月 25 日の 19:00～21:00 浦和コミュニティーセンター



机上講習は、平川講師から安全登山のための準備、計画、トレーニング、登山用具の選び方、歩行技術、ポール活用術、救急技術基本等々、多岐にわたる豊富な内容で2時間があったという間に過ぎてしまう貴重な充実した講習であった。まだ、登山歴の浅い塾生にとってはどれもこれも役に立つ、納得感のある内容であった。ほとんどの方が登山は自己流でこのように論理的かつ体系的に指導されたことは初めてであったようである。

3. 第1回登山実技講習・大高取山 376.4m 6月10日(日) 小雨→曇り



第1回の登山実技講習は、大高取山で行われた。生憎の雨模様であったが、集合の越生駅で靴の履き方チェック、パッキング、歩行技術などがレクチャーされた後、大高取山山頂を往復した。歩行中も所要所で地形の見方、ルートの確認、安全な歩き方などの指導を受けつつ、ハイキングを楽しんだ。塾生個別にもきめ細かく歩き方や雨具のチェックなども行われ、ただ歩き、登るだけでなく、考えたり様々な気づきを得たり、自立を目指した登山の第一歩を体験した。



4. 第2回登山実技講習・武甲山 1295.4m 7月1日(日) 晴

第2回の登山実技講習は、武甲山である。季節は早くも猛暑を迎え、汗だくの登山となった。新緑の中、平川コーチの無理のないペースで、休憩ごとにオーダーを変え、だれもが平川コーチの後の2番手を歩きながら歩き方のポイントを学んだ。長い登りあり、急な下降もあり、登山道に合わせた歩き方、歩行ペースの体感、1日の体力消耗のバランスなども経験した。

5. 第3回登山実技講習・雲取山 2017m 10月20日(土)～21日(日) 晴

第3回は予定した9月29日～30日に大型台風が関東直撃の予報となり止む無く延期、10月20日～21日となってしまった。急な日程変更のため不都合な塾生が多く出てしまい申し訳ない仕儀となった。

それでも 5 名の塾生が参加され、好天（特に 2 日目はドピーカン）のもと順調に雲取山縦走を歩き切った。登山経験浅い塾生の方も第一回の歩きぶりから大いに成長され、大きな遅れもなく成長ぶりが実感できた。また、雲取山荘では埼玉支部昵懇の元埼玉県警山岳救助隊の飯田さんが山小屋の手伝いに来ておられ、夕食後のひと時を利用して安全登山の講話をいただいた。思いがけない特別サービスで一同感激した。また、和気あいあいと懇親を深めることができた。

6. まとめ

埼玉支部としては初めての取組であり、ほぼ 1 年かけて巷で開催されているものや他支部登山教室の研究、支部委員会での度重なる検討、平川コーチ兼講師との打ち合わせ、サポートチームメンバーによる検討会等々にたつぷりと時間をかけた。

その中で開催の趣旨は、公益社団法人として「安全を確保し自立した登山者を育成し、健全な登山振興に寄与すること」を第一義として、その結果として趣旨を理解し、日本山岳会で

登山を楽しみつつ成長したいという方に入会していただけたら幸いである。新入会員の増強を第一義にはしない、また、昔取った杵柄の押し付けはしない、ということが確認された。また、この活動を通して出来るだけ多くの会員に参画いただき、支部活動の活性化の一助とすることも大きな目的とした。

以上を実現するため、コーチ兼講師にプロガイドで登山者育成に経験豊富、かつ最新の登山情報を豊富に備えている平川会員にお願いし、支部長、事務局長をはじめとする 17 名によるサポートチームを結成した。サポートチームは机上講習、登山実技講習にそれぞれ役割担当を決め自主的に、かつ責任を持ってご協力をいただいた。また、特に登山実技講習の際には塾生と緊密なコミュニケーションをとっていただき、日本山岳会の PR にも努め、登山を通して仲間意識の醸成に努めていただいた。

講習時の塾生の反応や終了後のアンケートなどによると塾生の満足度は極めて高いものと判断できる。また、終了後に 3 名から入会申し込みがあり、他にも検討中という話も聞いている。

今回は自治体や諸団体とのタイアップ形式はとらず、あくまでも SNS やチラシなどによる自力募集によることとした。サポートチームメンバーの中には近郊のハイキングコースでチラシを手渡しで配布した方や懇意なスポーツ店にチラシを置かせてもらったりしたが、後であの時手にしたチラシで参加したということも分かって感心したものである。埼玉支部の身の丈に合ったサイズの活動を地道にやった成果であると思う。

また、今回は本部支部事業委員会の特別事業補助金をいただき、お陰様で財政面での懸念が全く無かったことはありがたい限りである。

この活動に取り組んでみて支部の課題点も浮かび上がった。また、川越市からは健康登山促進のための講座の開催の依頼も舞い込んだ。新たな課題に向けてまた知恵を絞らねばならない。



7 月月例山行

「平ヶ岳 (2141m)」☆☆

会員 吉田 寛治

7 月 7 日平ヶ岳への昨年のリベンジを果たすべく埼玉を出発したが九州・関西地方は大雨警報の最中である。しかし平ヶ岳の天気予報の登山指数は朝の内 B ランク、12 時から A ランクになっている。天気予報を信頼しともかく出発した。7 月 8 日 3 時起床、4 時マイクロバスで伝之助小屋を出発する。ポツポツと小雨とはいかないまでも雨が降っている。伝之助小屋の主人の下るころには晴れているよと言う言葉を信じて行く。5 時 30 分中ノ岐川平ヶ岳登山口で準備を整え出発する。



青空の見える中山頂付近の木道

平ヶ岳沢を二段の橋で渡り登山道に入る。急な登りが続く。登山口では雨は止んでいたがその後雨が少し降り出したので雨具を付ける。五葉松で小休止、その後も急な登りが続く。花崗岩の風化した砂状の土が雨で削られ大きな段差を作っている。木の根も大きく露出し更に根曲竹の切り口がこちらを向いてる。



平ヶ岳三角点にて

つまづかないように滑らないようにコバイケイソウの咲く木道を行く。慎重に歩を進める。突然視界が開け後方に少し青空が見える中、越後駒ヶ岳、中ノ岳が見え出す。駒ヶ岳の山頂は少し雲に覆われている。稜線に出て風が強くなったので一度脱いた雨具を体温が奪われないように再び付ける。道は木道となる。一部朽ちたところもあるがメンテナンスは良くされている。

8 時 40 分頃玉子石に着く。雪溪を抜け姫ノ池経由で山頂に向かう。9 時 46 分平ヶ岳三角点到着、約 5 分位でアンテナの立つ山頂に着く。何の表示もなく山頂ははっきりしない。霧が深く回りは何も見えない早々に引き返し三角点で記念写真を撮る。バスも待たせてあるので下山に移る。下りもえぐれた大きな段差と根曲竹に阻まれ苦労する。13 時全員無事登山口に戻る。

反省点：当初計画されていた五葉松で朝食の指示がなかった。：休息は 1 時間歩いたら 5～10 分取るという事を徹底する。：最後部が遅れていないか絶えず注意する。



雪溪帯を行く

7 月第 34 回全国支部懇談会（北海道）

「全国支部懇談会に参加」

会員 高橋 努

平成 30 年 7 月 21 日・22 日と北海道支部主催の全国支部懇談会に参加しました。埼玉支部からは 7 名の参加、全国から 180 名を超える参加者でした。北海道の山々を撮り続けておられる山岳写真家の市根井孝悦氏のご講演を皮切りに 1 日目の懇親会、心配された雨も上がった中、みずみずしい新緑と

高山植物に目を奪われた 2 日目の大雪山ハイキング。あっという間の 2 日間でした。全国支部の顔見知りや北海道支部の仲間との邂逅は北海道のおおらかな雰囲気と相まって、心豊かな充実感を与えてくれました。



大雪山黒岳山頂から

北海道支部の皆さんの明るく心のこもったおもてなしにより今回の全国支部懇談会もとても素晴らしいイベントとなりました。

終了後は、せっかく北海道まで来たのだからと礼文島、利尻島に足を延ばし、礼文山と利尻山に登った。北海道でも北端の山々でその自然美の素晴らしさは言うことなしでした。

来年の全国支部懇は栃木支部主催で奥日光だそうです。また、楽しみです。



チシマキンバイの群落

8 月月例山行

「火打山 (2.462m)・妙高山 (2.454m)・

黒姫山 (2.053m) — 夏山の思い出」☆☆☆

東海支部会員 小口 弘美

1 日目 (8/3) 黒姫山

9 時 30 分戸隠牧場近くの大橋登山口に各車集合し出発。古池〈中部電力鳥居川第三発電所の池〉を巡り、沢を渡り緩やかに登っていく。新道分岐から「しなの木」、ここから山頂まで急登が続きます。山頂には黒姫弁財天を祀っています。下山は新道分岐ゲートから大橋林道歩きが長く続いた。山の印象としては、登山道はよく整備されていたが、笹が縦向きに置いて有り滑りやすく歩きづらかった。

2 日目 (8/4) 妙高山

笹ヶ峰キャンプ場 6 時出発。登山口から登り始めは緩やかな木道歩き。黒沢橋を渡り少し行くと十二曲がりが始まったが意外に早く早く終わった。ここからが本番の登りです。富士見平ここが火打山と妙高山の分岐。黒沢池ヒュッテの間に高層湿原が広がり尾瀬を思わせる。黒沢池ヒュッテから大倉乗越へ上がると、ここより妙高山は急な下りと急な登りが続きます。昨日から胃腸の調子が悪かったのでこれ以上は無理と判断し、私はリタイアです。無理して皆様に迷惑を掛けては…

3 日目 (8/5) 火打山

黒沢池ヒュッテ 6 時出発。この日は 3 日間で一番胃腸の調子が良く、天狗の庭から火打山への登り、気持ちよく山を楽しむ事が出来ました。天気も良く展望も楽しめました。下りは天狗の庭で写真を撮り高谷池ヒュッテに寄り、ここより本番の下りですが、上から見下ろすと、こんなにきつい所を登って来たのかと改めて感じました。昨年の鳥海山では妹が皆様に大変迷惑をお掛けしてしまい、今年もどうなるか心配でしたが、同行の方が妹について指導しながら下山していただけたので、コースタイムで下りる事ができ有難うございました。又、妹も今年は山を楽しむ事が出来たと言っていました。アドバイスをしてくださった皆様に感謝します。



快晴の高原に行く



妙高山を目指す



妙高山頂



天狗の庭から火打山



火打山頂



火打山を望む

9 月月例山行兼 2018「山の日」記念イベント 「大高取山」☆

支部長 松本 敏夫

平成 30 年度の「山の日」イベントは、埼玉県山岳連盟 2018「山の日」実行委員会主催、越生町、日本山岳・スポーツクライミング協会および日本山岳会埼玉支部後援で、9 月 1 日（土）8 時、越生駅前ポケットパークに集合、越生町の大高取山周辺で開催された。開会式では来賓として参加された越生町の新井雄啓町長から挨拶を頂き、越生町の「ゆずの里ケーブルテレビ」の取材があった。



越生町新井町長の挨拶

当日は明け方から雨が降りだし、残念ながら雨具着用で開会式に臨む状況であった。参加者は埼

玉県山岳連盟加盟の各山岳会及び一般登山愛好家並びに救護担当として参加した防衛医大の学生等を含め総計 77 名で、日本山岳会埼玉支部からは 13 名の会員が参加した。



ゆずの里ケーブルテレビの取材

当初の計画では、開会式の後、A 班「ふるさとの山を登ろう」コース、B 班「特異な地層や植物観察」コース、C 班「三角点を見つけよう」コース、の各班（各 30 名程度）に分かれて登山する予定であった。しかし、実行委員会協議の結果、天候が悪く大高取山登山は困難と判断し、各班共に世界無名戦士の墓から天候の状況により西山高取まで行き、越生駅に戻るコースに変更された。なお、雨の状況次第では、舗装された道が続く無名戦士の墓までの往復とする可能性も残して出発

した。



ポケットパークでの開会式風景

僧行基伝説を残し源頼朝が再興した法恩寺境内から鎌倉時代に活躍した越生次郎家行を祀った越生神社（かつての八幡神社）を参拝して、車道を辿り第二次世界大戦で亡くなった将兵を敵味方の区別なく供養した世界無名戦士の墓で休憩となる。雨が上がったこともあり蛇行した越辺川や越生駅付近がぼんやりと眺められた。世界無名戦士の墓の横に四等三角点があることから三角点に関する説明が行われた。

道標に従い西山高取に至ると曇り空の下に毛呂山町の街並みが眺められた。山頂でしばらく休憩後に高取城址に向けて下山を開始する。途中、ウラジロやチャートの岩塊を眺め、空堀や土塁を過ぎるとスダジイの二本の巨木が残る高取城址（越生神社の奥の院でもある）で郷土の歴史、地層、植物等の説明を聞く。その後、越生神社を経由して越生ポケットパークに 11 時過ぎに戻り、2018「山の日」イベントは無事に終了した。

雨は上がったものの何時降り出すか気の揉める天候であったが、参加者全員事故もなく出発地点に戻った。大高取山周辺の歴史・文化、地層、植物、三角点等の説明担当として各班では入念な事前準備をしていたが、あいにくの天候のため担当者に説明して頂く十分な時間を割くことができなかったのは誠に残念であった。また、登山道も雨に濡れ下りは特に滑りやすくなっていたため、慎重に足を運ぶことが必要であった。予定していた大高取山や僧行基が造ったと伝わる観世音菩薩像

を安置する桂木観音まで歩けなかったことは残念ではあったが、今回の 2018「山の日」イベント・大高取山を契機に、日本で最初に「ハイキングの町」宣言をした越生の山々に親しんで頂くきっかけになれば、「ふるさとの山を登ろう」のテーマで、大高取山周辺で開催されたことは意義深いことであつたと思われる。



無名戦士の墓での B 班



西山高取山頂で休憩中



高取城址での説明会



越生ポケットパークでの閉会式

10 月月例山行

「秋の浅間隠山 (1757m) ハイキング」☆ 山行委員会

10 月 12 日 (金) 12 名参加

10 月の月例山行は、秋の平日に浅間隠山で静かな、のんびりしたハイキングを楽しみました。新版日本三百名山によれば「高崎の市街地から西に、ひときわ目立つピラミッド型の山が浅間隠山だ。北側の東吾妻・中之条町側から見ると、浅間山を隠してしまうところから名づけられ、富士山に似た山容から、旧倉沢村川浦からの川浦富士あるいは山頂部が 2 峰に分かれているため矢筈山といった別名もある。角落山塊の最高峰である」

高崎から国道 406 号線を進み旧倉沢村を辿る。日本の原風景とも言うべき田畑と山に囲まれたのどかな道筋である。倉沢村は幕末の江戸幕府勘定奉行を務めた偉人小栗上野介の終焉の地であるが、上野介が横須賀に鉄工所を開いたことから友好都市の縁があり、横須賀市の宿泊施設「はまゆう荘」がある。

登山口は二度上峠の手前にある。かの木枯し紋次郎も超えたであろうという風情の峠道である。登山道を 1 時間半も辿ると景色の良い山頂に到達する。春ならつつじでも愛でながらとなるが、今は紅葉にも早く、全く静かである。おしゃべりしながら山頂に着けば、目の前に雄大な浅間山が聳えるが、残念ながら上部は雲の中であった。眼下には北軽井沢の放牧地が美しい広がりを見せている。

帰路にはお約束の温泉入浴である。山の中の鄙びた倉沢温泉で貸切状態でゆっくり温まった。家族経営で頑張っている雰囲気の良い温泉宿で応援したくなる。更にすぐそばの群馬の銘酒「大盃」を入手して気分よく帰路についた。



好天の浅間隠し山頂にて

自然保護委員会玉原高原観察会

第 5 次玉原高原ブナ林・湿原・上州雨乞山 自然観察会報告書

村越 百合子 (自然観察指導員)

委員長：高嶋徳紘 実行委員長：多田 稔

引率・解説：渡邊嘉也、村越百合子

日本山岳会埼玉支部・群馬支部自然保護委員会共催の「第 5 次ブナ林・湿原観察会」並びに上州雨乞山観察会を実施しましたので、以下報告します。

(当日の天候晴れ)

日程：2018 年 10 月 13 日 (土) ～14 日 (日)

参加者：埼玉支部 7 名 (松本支部長、高嶋、多田、藤野、堀川、村越、渡邊)、
群馬支部 5 名 (北原支部長、木暮、黛(利)、黛(智)、荒木)、
山の会すかんぽ 7 名 (沖川、野田、金子(和)、金子(英)、川上、奈良、米山)、本部自然保護委員会(川口委員長)
計 20 名 (敬称略)

行程：

10 月 13 日 (土)、沼田駅 11 時 20 分集合 ⇒ 玉原高原センターハウス (昼食) 12 時 45 分出発 ⇒ 探鳥路 ⇒ ブナ平 ⇒ 水源ルート ⇒ 湿原 ⇒ 玉原湿原水量調整堰 ⇒ センターハ

ウス 3 時 30 分着 ■川場村民宿(福寿草)泊(移動はレンタルバス使用)

玉原高原・湿原の植生に地元の木暮幸弘氏(群馬支部自然保護委員長)に今回の解説を戴いた。センターハウスから探鳥路に入りブナ林に行く。足下にはクリのイガが沢山落ちている。「熊がブナの木に登る時に付けた斜めの痕、因みに降りる時の傷は縦に付く。ブナは年間 3mm 程太くなるのでこの木は 60cm ほどなので 200 年位。ホオノキとトチノキの葉の形、アスナロ(翌檜)とヒノキの違い、など教えて貰う。ブナの木はキノコの宝庫である、食べられるキノコを学ぶのはリスクがあるので、毒キノコを知ろうと図鑑を頼りに自然観察指導員である村越さんと確認する、キリシタケ、クロトマヤタケモドキ、クロタマゴテングタケを確認できた。生死に関わる食べられるキノコについては更に勉強が必要だ。湿原との分岐の指導標は見事に熊にかじられている。シンナーの香りが好きなのか異物に興味があるのかクマに聞きたい! 最後までクマ棚は見付けることは出来なかった。花の季節が終わった秋の湿原はヌマガヤで彩られていた。木暮さんは湿原調整堰まで足を伸ばし、希少植物「ツルリンドウ」の花を見せてくれ観察会は終了した。群馬支部の 5 名は翌日の尾瀬行のためハウス前での北原支部長の挨拶の中で今後のコラボを戴き解散した。

10 月 14 日(日)

川場村中野登山口 8 時 45 分発 ⇒ 林道 ⇒ 白沢村分岐 ⇒ 10 時 15 分雨乞山頂着(休憩) 10 時 30 分山頂発 ⇒ 11 時 50 分登山口着 ⇒ 昼食(姫本) ⇒ 14 時 37 分沼田発(解散) 林道を暫く歩くと、この山にもクリのイガが沢山落ちている。クマが最近出たとの話に納得する。所々に虎ロープも張ってあり注意しながら最後の急登を越すと雨乞山山頂に着いた。山頂からは最終間氷河期(20 万年前)を経て出来た水域(古沼田湖)によって形成された沼田面(10~15 万年前)、

井閑面(6 万年前)、貝野瀬 I~III 面(3~1.5 万年前)、低位面(1.3~1 万年前)の 7 段の段丘が片品川(利根川支流)に沿って発達している様子が判る。向いの三峰山が上州武尊の溶岩台地であることも理解できた。雨乞山は地学の勉強には最適な山域であると思った。山頂からは直接林道へ出る道もあるが登山口からと同じ中野登山口に下山した。登山前に、川場村の東国花の寺群馬 11 番の「吉祥寺」を訪ねたが開門時間前で参拝はできなかった。(文献: 地理学評論 1998、71A-11 783-804、「利根川水系片品川流域の地形発達史」 竹本弘幸)。10 月 13 日(土曜・玉原高原・湿原で観察できた植物)

ブナ、チシマザサ、トチノキ、ホウノキ、ツリバナ、ウワミズザクラ、タムシバ、リョウブ、フユイチゴ、ツボスミレ、ダケカンバ、ナナカマド、ミズナラ、ヤマホトギス、モウセンゴケ、ミズバショウ、クルマムグラ、アキノキリンソウ・ウラジロヨウラク、エゾリンドウ、ツルリンドウ、ナガバリンドウ、キノコ類

シロハツモドキ、ムキタケ、ドクベニタケ、カワラタケ、キツネノチャブクロ、ホコリタケ、イヌセンボンタケ、

野鳥

ヒヨドリ、コゲラ、メジロ、ウグイス、ヤマガラ、アオサギ、ハシブトガラス

10 月 14 日(日曜日・上州雨乞山登山道沿い)

マメアサガオ、ホトケノザ、セイタカアワダチソウ、ヤブミョウガ、ミズヒキ、キンミズヒキ、カナムグラ、イヌタデ、ミゾソバ、ヘビイチゴ、アカツメクサ、シロツメクサ、カタバミ、アキノタムラソウ、トキハハゼ、アキノキリンソウ・ホソバテンナンショウ、マムシグサ、キバナアキギリ、カワミドリ、モミジガサ、ノハラアザミ、ツルリンドウ、ノゲシ、キノコ類、スギエダタケ、セイロチャワンタケ

野鳥

スズメ、ヒヨドリ、コゲラ、ウソ、キジバト、メジロ、

シジュウカラ、カケス、ジョウビタキ、ハシボソガラス、ハシブトガラス、アオジ、

第3回南関東ブロック三支部合同懇親山行 埼玉支部 渡邊 嘉也

平成 30 年 10 月 27 日・28 日に第 3 回南関東ブロック三支部合同懇親山行「大高取山」が秋空のもと、埼玉県入間郡越生町で行われました。(参加 28 名)

初日 27 日の開会式では、神奈川・多摩・埼玉の各支部役員の紹介に続き、山岳映画鑑賞。夜はキャンプサイトで BBQ パーティ、チャリティーオークションを催しました。寄金は埼玉県障害者スポーツ協会へ寄付。「ゆーパークおごせ」のログハウス、キャビンは山小屋の雰囲気ですぐ気持ちよく眠れた。



左：埼玉支部渡邊嘉也 右：東京多摩支部山本憲一氏

二日目の 28 日 自然観察会班 (3 名) と大高取山登山班 (21 名) が夫々出発する。

登山班は予定を早め 9 時に出発、登山口の脇には太陽光パネルが森を切り開いて寝ている。何とも山には馴染まない。登山路に入ると落ち葉に混じってドングリが一杯、栗のイガもある。熊の大好物だ。「クマ出没」の注意書きに納得する。山はスギ・サワラの人工林にコナラ、モミ、スダジイ、ヒサカキ、ヒイラギなどの照葉樹が混在している。地べたに身をふせるように丸い葉の下にフユイチゴが赤い実をつけている、コウヤボウキも所々に見える。柚子林を抜け 30 分程で桂

木観音への道に出た。急な階段を登り桂木観音で参拝する。大和葛城山からの眺望に似ているのが名前の由来とされているが素晴らしい眺望である。

観音様の右手の急峻な道を辿り、西山高取への分岐を過ぎると 10 分程で大高取山(標高 367.4m)の山頂に出た。山頂からの眺望を楽しんでいると向かいの山を大きな鳥が旋回している。始め一羽であったが 4 羽に増えている。「オオワシかな」と誰かが言う「ノスリだと思います」と野鳥インストラクタを目指す村越百合子さん。記念写真撮影に入った時、突然この鳥が私達の真上で歓迎の旋回をしてくれている。この雄姿を撮ろうと一斉に写真撮影、ノスリの特長である翼角(肩の部分)の黒斑と腹部の黒い帯からノスリであることが確認できた。

山頂から分岐迄戻り、法恩寺へ向けて下る。幕岩への径を過ぎると「白石様」と呼ばれる白い岩があった。この岩は信仰の対象となっている。「この石灰石の表面にはウミユリの化石が見られる。この岩は 1 億 6 千万年前の中生代ジュラ紀新世に海底で堆積されたものであるが、この山のベースでもあるミカブ緑色岩は 7 千～5 千万年前中生代白亜紀の終わりから新生代三紀の海底火山の変動によって出来た堆積岩である。色が緑色なのは岩石が熱や強い圧力などの変性作用を受けたことによる」など考古学を研究している鴨志田隼司さんが解説して下さい。つまりこの大高取山は新しい時代のミカブ緑色岩の上に古い堆積岩がある 2 階建ての山(越生の自然 P67)である。更に森を下っていくと道にはフユイチゴや(正月の注連飾りでお馴染みの)ウラジロの群落があった。西山高取の分岐を過ぎると神木スダジイを奉る高取城跡に出た。この城跡は頼朝に従軍した越生氏の詰め城または物見台と考えられている。壊れかけた石段を下り、滑りやすいミカブ緑色岩と関東ローム層の径を行くと左に無名戦士之墓へ行く舗装道路を下って行くと長屋門の脇に綺麗な実をつけたコムラサキを見つけた。12 時丁度、門をくぐ

り法恩寺に着いた。

山行中、中村直樹さんには花、樹木、草などの正確な名前や植生などをご教示戴き有難うございました。清々しい青空の下、森林と植生、大地の歴史、地質と人々の暮らし等多くを学んだ山旅であった。



自然観察班

**【寄稿】第3回南関東ブロック三支部合同懇親山行
「第3回 南関東ブロック三支部合同
懇親山行に参加して」**

東京多摩支部 山本 憲一

埼玉支部、山梨支部、東京多摩支部の雲取山を分け合う三支部で始めた合同懇親山行であったが、本部による全国支部のブロック化により埼玉、神奈川、東京多摩の三支部に再編成されてから今回で一回りしたことになる。

これまでの三支部合同懇親山行は雨に降られることが多く、過去には東京多摩支部と神奈川支部とが大雨で山行中止となっている。何が悪いのか、天候に恵まれない合同山行であったが、今回は秋の晴天に恵まれ、カラッと晴れあがった空の下で懇親会と山行が行われた。

初日の10月27日は、梅の里で知られた越生町にある「ゆうパークおごせ」に集合し、プレイベント「越生ブリュワリー」の見学と試飲があり、14時45分から開会式が始まった。この日のメインイベントは世界的な登山家ガストン・レビュファ監督の山岳映画「天と地の間に」の鑑賞であった。古い映画であるが、懐かしい思い出とともに

スリリングな岩壁のクライミングに見入った。

懇親会はゆうパーク内の大きな屋根のついたBBQ会場で行われた。秋の陽は釣瓶落として夕暮れから始まった会場はあつという間に暗い闇の中に煌々と照らされた空間となり、食事をしながら各支部持ち寄りの品のオークションを楽しんだ。

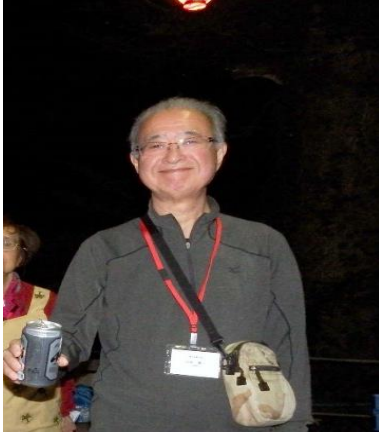
翌日は大高取山のハイキングである。いつもは越生駅から歩きだすそうだが、今回はゆうパークからの反対コースになるという。越生町は梅以外に柚子栽培が盛んだそうで、桂木観音への道の周りは柚子畑で大小様々の柚子が沢山生っていた。コースはいかにも埼玉の里山らしい和やかな山道が続き、埼玉支部の植物博士が次々と名前を挙げて説明されていた。桂木観音から20分程で、大高取山山頂での昼食となった。大宮方面が開けた山頂からの眺めはよく、手前の山の間に4羽の猛禽類らしい鳥が飛んでいるのが見えた。あれは何かと話していると、埼玉支部の鳥博士がノスリだと言い、写真を見せてくれた。しばらくして我々がいる山頂の真上を大きく翼を広げたノスリが睥睨するかのようによっくりと飛んで行った。1mを超すと思われる翼の大きさと近さに驚きと感激が交錯した。埼玉丘陵地帯の自然の豊かさを感じた瞬間であった。



大高取山山頂を飛ぶノスリ

下山時にはチャートの岩塊や白岩様と呼ばれる石灰岩の露頭があり、埼玉支部の地学博士が解説をしてくれた。3時間ほどで越生駅前に到着、江戸城を開いた太田道灌の出生地と書かれた大きな看板のある休憩所前で解散となった。

今回は埼玉支部の皆さんのお陰で楽しい懇親会と埼玉の山の自然の豊かさと地球の歴史を学ぶ山行を楽しむことができた。感謝と共に、埼玉支部の博学の皆さんとまた謎解き登山をしたいと思った。



山本 憲一氏

**【寄稿】第3回南関東ブロック三支部合同懇親山行
「南関東3支部合同懇親山行に参加して」
神奈川支部長 込田 伸夫**

日本山岳会南関東3支部合同懇親山行は、今年は埼玉支部の主催で、10月27～28日に越生町ゆうパーク越生にて開催された。私たち神奈川支部からの参加者4名は、大槻副支部長運転の車で越生に向けて海老名を出発し途中、聖天院と高麗神社に立ち寄った。高麗という名前が示唆しているように、この地方は高麗王族若光とその一族郎党が、動乱の朝鮮半島から逃れてきて開拓したとの説明書きがあった。また高麗神社の宮司は代々、若光の子孫が務めているとのことである。入り口には天下大將軍、天下女將軍の門柱が私たちを出迎えてくれた。思えば湘南の大磯にも高来（タカク）神社があり、これは本来、高麗に由来すると聞いたことを思い出した。古来より埼玉と神奈川は文化的な交流があったことを改めて認識した。快適なドライブをして到着した越生は、里山のある長閑でほのぼのとした印象の町だった。

懇親会開始前には近くのブリュワリー訪問、山岳映画の上映などのイベントが用意されていて、充実した時間を過ごすことができた。埼玉支部心尽しのBBQパーティーや、ログキャビンでの宿泊

もキャンプ気分で楽しい一夜を過ごせた。懇親会の席上行われたチャリティーオークションでは、古川事務局長の競売人としての類い稀なる才能も存分に堪能させていただいた。埼玉支部は慈善活動も活発とのことで、会員皆様の温かい思いやりには頭の下がる思いがした。

私はかつて棒ノ折山や伊豆が岳、日和田山、宝登山などは歩いたことがあったが、今回の大高取山は初めてだった。この上ない好天に恵まれた山歩きの途中、地質や植物についての解説もあり、色鮮やかな実を付けたゆずの畑を眺めながらのハイキングは、とても有意義で楽しく心とむ山行となった。

最後になりましたが、今回の思い出深い企画をしていただきました松本支部長、古川事務局長、並びに埼玉支部の皆様に心より感謝申し上げる次第です。



右：込田伸夫神奈川支部長

**【寄稿】第3回南関東ブロック三支部合同懇親
山行に参加して
「山は仲間と歩けば楽しくなる」
日本山岳会東海支部所属・
アルパインツアーサービス(株)勤務
会員番号12867 亀田 広明**

今回、他支部会員の私に埼玉支部・事務局長の古川史典さんから南関東ブロック三支部合同懇親山行にお誘いをいただきました。私が山旅専門の旅行会社（アルパインツアーサービス）で働いていることから埼玉支部の皆さまとは、日頃から面識がありましたが、今回、神奈川支部や多摩支部

の方々とはあまり面識もなかったので私の正体が旅行会社勤務ということで「営業に来たか!」と煙たがられないか不安もありました。そのようなことにならないよう私自身、仕事を忘れ、日本山岳会の一会員として参加しました。

初日は、夕食が屋外のBBQということで必然的に参加者同士が協力しあいながら懇親会は始まりました。炭火を囲んでフィールドの中でおこなう懇親会は、レストランや食堂とは異なり、一味違う雰囲気の中で見知らぬ方とも自然に会話も弾み、私も仕事を忘れ、たくさんの方々とお話ができて楽しい時間を過ごすことができました。



屋外でのBBQ

翌日の親睦登山は、快晴に恵まれ、あたたかな気候の中、爽快な登山でした。今回の舞台は、「ハイキングの町」を宣言する埼玉県入間郡越生町であり、この時期は、ゆずが実り、柑橘の香りが漂う中を歩きました。ここは、春は梅の花が咲いて、それぞれの季節感を楽しめる魅力あるフィールドです。首都圏近郊でこれほど長閑な里山があることにあらためて驚かされました。また、今回、地質学や植生、歴史の詳しい方がおり、その解説で2億年前の時の経過を感じることができ、この地域が地質学的にも重要な場所であることを教えていただきました。もし、私が単独でこのコースを歩いていたならここが宝の山であるということも知らず、登山道中に転がる石や岩などに興味も示さず黙々と歩いていたでしょう。

今回の親睦山行を通じ、「やはり山登りは一人で歩くより、仲間と歩くことが楽しい」を感じさせ

てくれました。仲間と一緒に歩くことで一人では気付くことのできない視野の広がりを得られることを実感する山行でした。南関東ブロックの皆さまには深く感謝を申し上げます。



平成30年度 公益社団法人日本山岳会
埼玉支部予定(11月~3月)

	日・曜日	担 持	場 所	開始時間
	1日(木)	総 第25号支部報発行		
	5日(月)~6日(火)	山 四季の山・秋山七面山と講話	山梨県・七面山	
11月	7日(水)	安 スマホGPS利用講演会	浦和パルコ	18:30
	14日(水)	支 第8回支部委員会	浦和パルコ	18:30
	17日(土)	安 スマホGPS野外利用講習会	越生町・大高取山	8:30集合
	18日(日)	自 第6回大高取山自然観察会	越生町・大高取山	
12月	12日(水)	支 第9回支部委員会	浦和パルコ	18:30
	15日(土)~16日(日)	山 忘年山行・忘年懇親会	寄居町・寄居近郊	9:00集合
1月	9日(水)	支 第10回支部委員会	浦和パルコ	18:30
	12日(土)	山 新年山行・新年懇親会	小川町・仙元山	
	19日(土)	安 安全登山講演会「埼玉山隊講演会」	埼玉会館2階ラウンジ	13:00
	24日(木)	自 第5回シンポジウム「埼玉の自然を訪ねる」	浦和パルコ	18:00
	24日(木)~27日(日)	山 海外登山「香港の山旅」(予定)	香港	
2月	13日(水)	支 第11回支部委員会	浦和パルコ	18:30
	16日(土)~17日(日)	山 四季の山・冬山	宮城県・蔵王	
	24日(日)	安 安全登山講習会「登山中の事故対処」	埼玉会館3階3C	9:00
3月	13日(水)	支 第12回支部委員会	浦和パルコ	18:30
	15日(金)	総 第26号支部報発行		
	30日(土)	山 月例山行	入間市・加治丘陵	

平成31年度4月

4月	7日(日)	社 ふれあい登山	入間市・加治丘陵	
	13日(土)	総 埼玉支部総会 懇親会	埼玉会館4階A 浦和伊勢丹7階	13:30 16:00
	14日(日)	山 総会記念山行	群馬県・小野子山	

1) 凡例: 支→支部委員会 山→山行委員会 安→安全登山委員会 自→自然保護委員会
社→社会貢献委員会 広→広報委員会 総→総務委員会

2) 原則定例会議日: 支部委員会→毎月第2水曜日 18:30 浦和パルコ9階
山行委員会→毎月第2月曜日 19:00 浦和パルコ9階
自然保護委員会→毎月第2水曜日 18:00 浦和パルコ9階
安全登山・社会貢献・広報・総務の各委員会→不定期

3) 埼玉支部年度予定は、変更もありますので事前にHP・各委員会にご確認・お問合せ下さい。

平成30年11月1日

公益社団法人日本山岳会埼玉支部

埼玉支部会員/会友在籍者数及び異動

平成 30 年 11 月 8 日現在

会員	127 名	準会員	1 名	会友	10 名	計	138 名
----	-------	-----	-----	----	------	---	-------

【入 会】

会 員			準会員			会 友		
16386	小林 真澄	8 月						
16422	久保田芳行	9 月						

【退 会】

会 員			準会員			会 友		
10397	酒井 明德	8 月						
13839	齋藤 知茂	10 月						
16145	関口 素子	10 月						

お願い・お知らせ

1、登山届の提出について

平成 29 年 12 月より日本山岳会では会員準会員に対し個人山行時に「登山届」の提出を義務化し届け出制となりました。そこで支部員の方には、埼玉支部標準様式（様式 E）を作成しましたのでご利用ください。※埼玉支部ホームページに掲載。

提出は事前に事務局長迄提出ください。様式 E 以外の場合は次の項目を届下さい。①日本山岳会員番号②氏名③生年月日④年齢⑤連絡先⑥緊急連絡先⑦目的の山・山域⑧入山日程⑨予定入山口⑩予定下山口⑪単独か複数の場合は同行者数⑫入山口迄の交通機関（電車バス・自家用車・その他）※日本山岳会ホームページもご覧ください。

2、山岳保険（任意）への加入について

支部規約第 7 条第 3 項において「支部会員、準会員及び支部会友は山岳保険に加入しなければならい。」とあります。そこで、未加入の場合は、加入をお願いいたします。加入されましたら、加入保険会社の名称を事務局長迄ご連絡下さい。

3、ヘルメットの着用

北アルプスの事故は四分の一が頭部の負傷だそうです。言うまでもなく頭部や頸椎の負傷は致命傷になります。最近はヘルメット着用奨励山域が指定され付近の山小屋でもヘルメットのレンタルがあります。負傷は岩場ばかりでなく普通の登山道でも転倒や滑落によって頭部を負傷するケースも多くなっていますので、ヘルメットの着用を推奨します。

4、埼玉支部山行グレードについて※あくまでも会員が参加する場合の目安としています。

- ☆ 行程 3～4 時間の一般向けハイキングコース
- ☆+ 行程 5～6 時間の一般向けハイキングコース
- ☆☆ 行程 7～8 時間の一般向け登山コース

☆☆☆ 行程 9～10 時間の健脚向け登山コース、岩登り、沢登り、雪山

5、支部報等の E メールないしホームページでの閲覧する方法の変更について

支部報等紙面での送付を希望されていた方で、閲覧をパソコン等でご覧いただける環境が整備された方は事務局長迄ご連絡ください。

6、平成 30 年度支部会費納入について

支部会費未納の方は、次の支部口座へお振込み下さい。

(1) 会費：①会員 2,000 円 ②会友 3,000 円③家計を同じくする者 1 人 1,500 円

(2) 払い込み先：郵便局 口座記号：00140—7— 口座番号：374281

加入者名：公益社団法人日本山岳会埼玉支部

(3) お問い合わせ：会計担当轟涼 電話 080-5455-7216 ryo-tod817@ezweb.ne.jp

7、埼玉支部 ML を使用して情報を発信・受信する時には以下の点に注意下さい。

(1) 送信者は送信するメール・添付文書の文頭に「このメールは埼玉支部メーリングリストにより送信しています。お問合せ・申し込み等は、発信者・担当者の個人アドレスに送信ください。このメールに返信しないでください。」と朱色で書入。

(2) 受信者は、受信メールに返信・送信するのではなく、送信者の個人メールアドレスに返信・送信して下さい。

8、会友制度について

平成 29 年度通常総会（6 の報告事項 2）において「会友制度を 3 年後に廃止する」と承認され、平成 31 年度末で廃止となります。

9、お問い合わせ、不明な点、連絡先、住所、電話、メールアドレス等変更がありましたら事務局長迄ご連絡下さい。

連絡先：事務局長古川史典 メールアドレス：f8008pk@rock.odn.ne.jp

電話：090—3219—0860 FAX：049-296-0860

なお 5、平成 30 年度支部会費納入については直接会計担当 轟涼迄お願い致します。

安全・安心・快適登山のための OnePoint アドバイス(その 4)

秋から冬への登山の注意ポイント「日照時間と天候の急変」

会員・日本山岳ガイド協会認定登山ガイドⅡ 平川 陽一郎

夏と比べて日の出は遅く、日の入りは速く、明るいうちに行動できるのが短くなります。

秋からの山は、ご自身の体力に合った行動時間の見直しが必要です。近郊の山は、昼なお暗い背の高い杉木立が多く、秋以降は 3 時でも暗くなり怪我のリスクが増えて来ます。夏の計画のままで行くと、途中で日没に捕まる可能性が多くなりますので注意が必要です。

ヘッドランプは、明るくてこそ意味があります。最低でも、200 ルーメン以上の明るさのあるヘッドランプを使いましょう。使用後は電池は抜いておきましょう、放電や液漏れをして肝心な時に使えなくなります。良くある事です、途中で電池が切れる事があります。

理由は「秋以降の夜＝寒い」です、電池の消耗も速くなります、電池は何時も新品を使いましょう、予備にも新品の電池をご用意ください。

この時期からは、防寒用のグッズは必需品です。

防寒着は、濡れても直ぐに乾く finetrack のポリゴン 2UL がお勧めです。

頭部と首、手首の保温も大切です、耳が隠れるサイズのビーニーと口元まで覆えるサイズのネックウォーマーと手首が隠れるサイズの手袋があると安心できます。体調を整え、山を調べ、時期に適したウェアや装備を備え安全な登山をお楽しみください。



公益社団法人日本山岳会 埼玉支部報 第 25 号 平成 30 年 (2018) 11 月 15 日発行

発行者：公益社団法人日本山岳会 埼玉支部 支部長 松本敏夫

事務局：350-0312 埼玉県比企郡鳩山町鳩ヶ丘 1-25-10 古川史典方

電 話：090-3219-0860 Email：f8008pk@rock.odn.ne.jp

埼玉支部ホームページ：http://www.jac.or.jp/saitamasibu/index.html